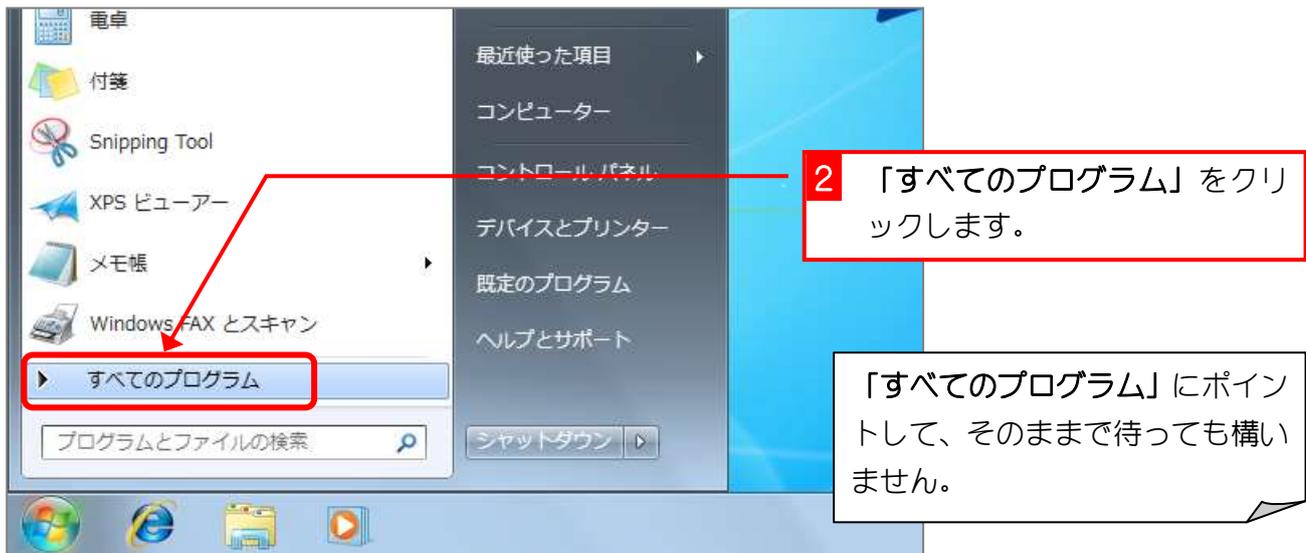
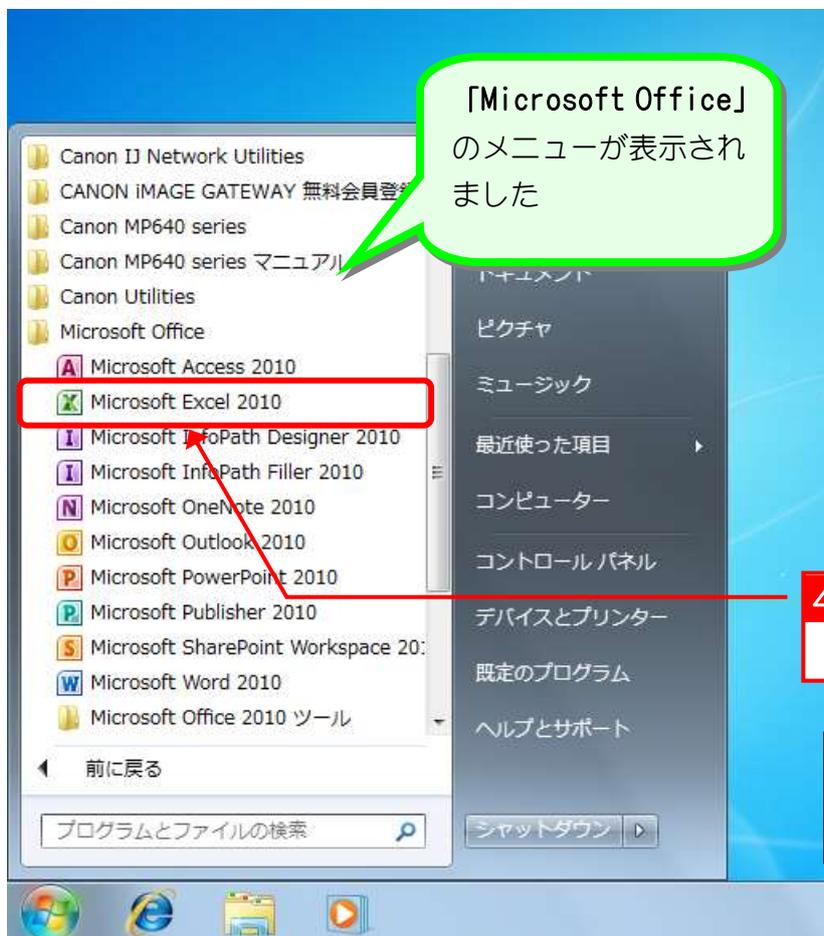
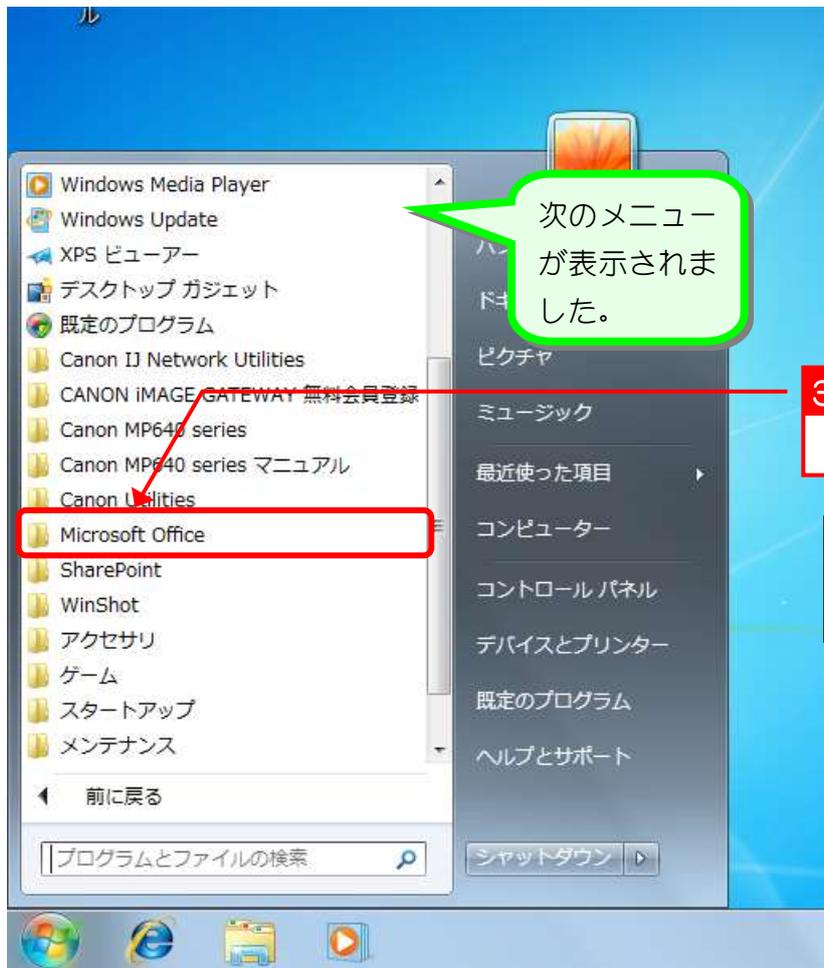
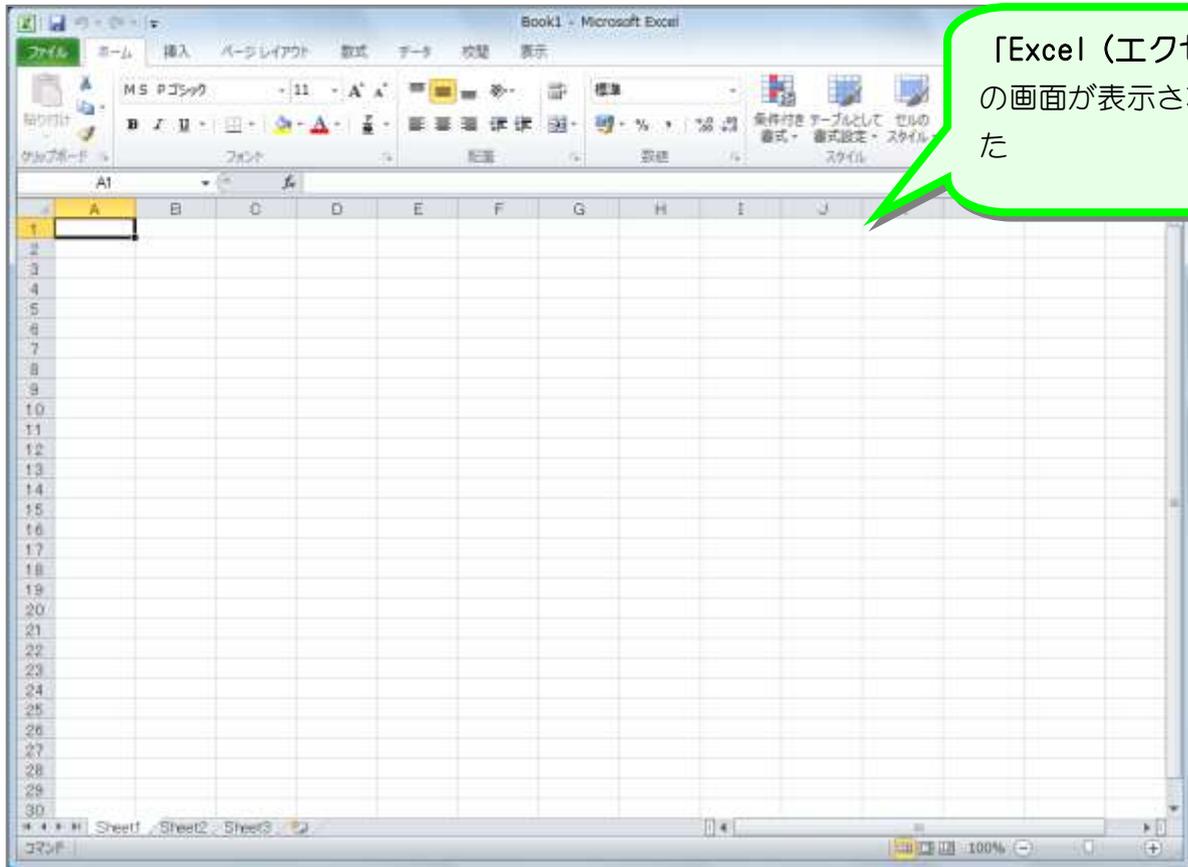


2. Excelを起動しましょう

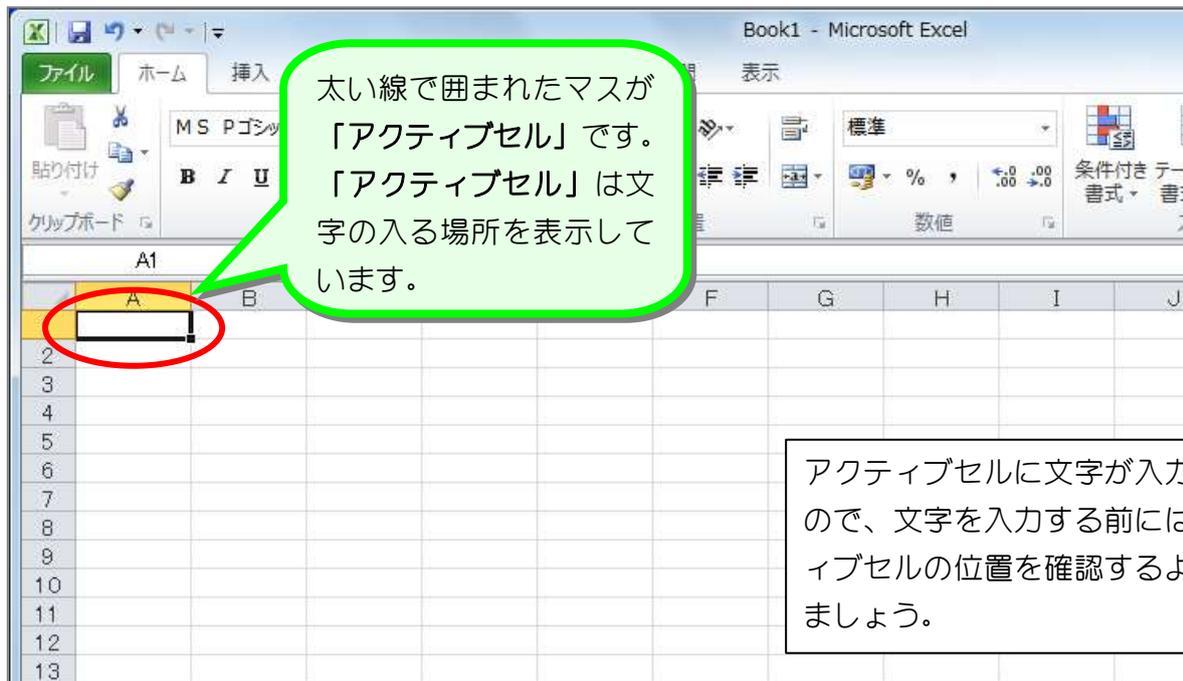






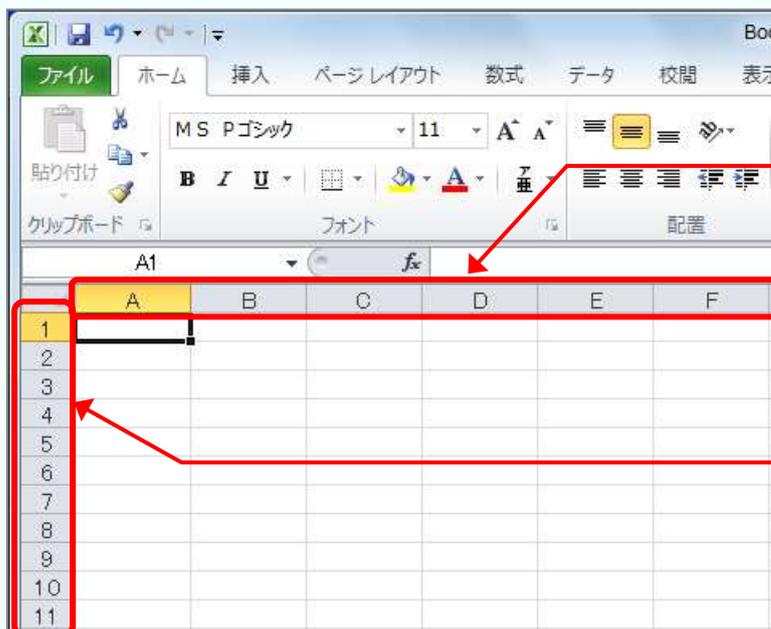
STEP 2. 文字を入力しましょう

1. アクティブセルの位置を確認しましょう



解説 セルとセル番地

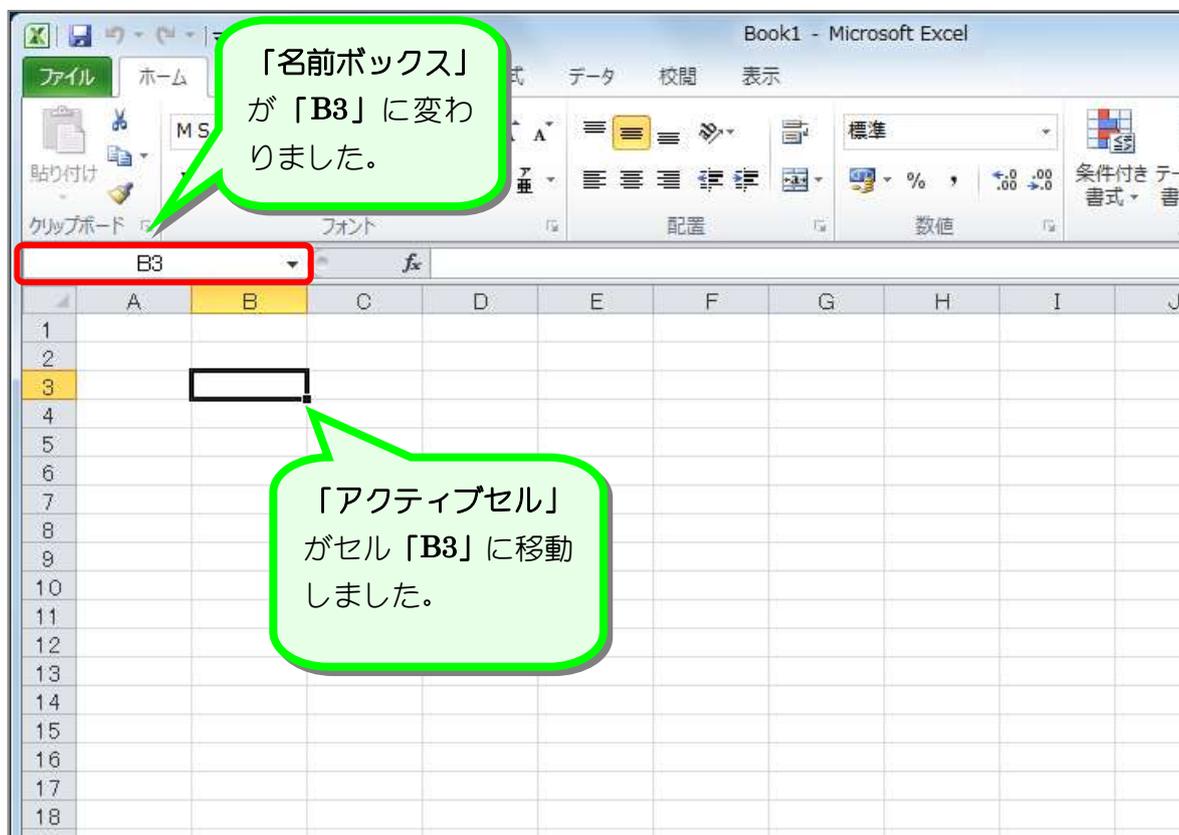
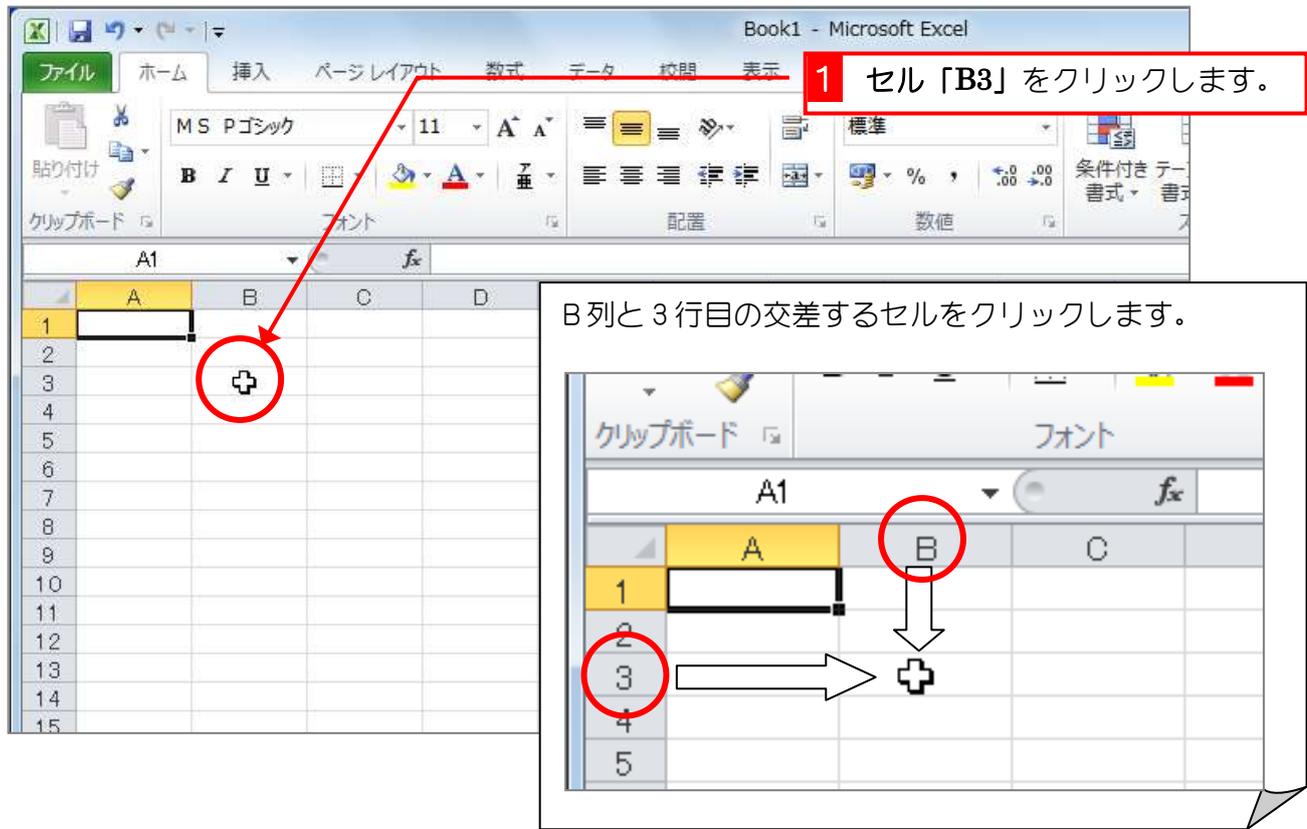
エクセルの画面の一つ一つのマス目を『セル』といいます。文字入力の対象となっているセルを『アクティブセル』といいます。それぞれのセルは番地で指定することができ、図のアクティブセルはA列と1行目の交差する所で『A1』として表すことができます。



列番号
AからZ、AAからAZ
最後は XFD までの
16,384 列

行番号
1から 1,048,576 行まで

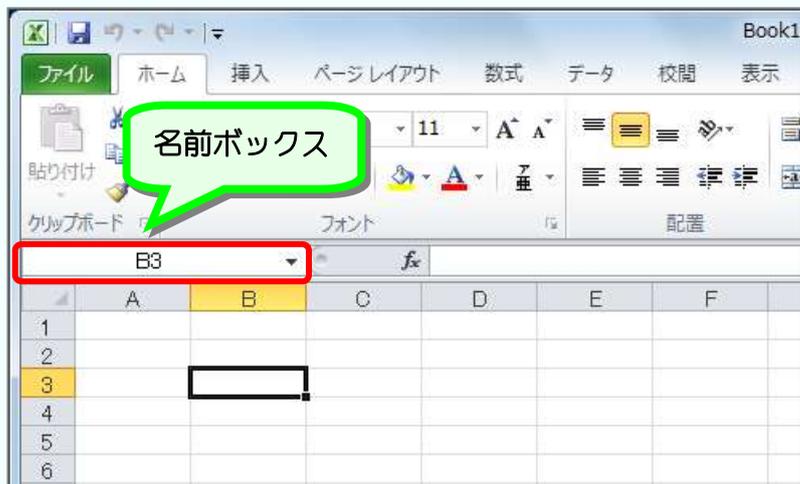
2. アクティブセルを「B3」に移動しましょう



解説 名前ボックス

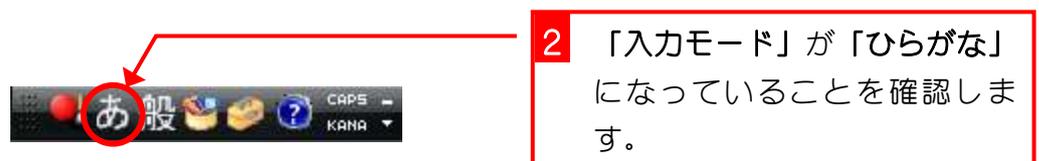
赤で囲んだ部分を「名前ボックス」と言います。

名前ボックスには現在のアクティブセルの番地が表示されています。アクティブセルがどこにあるのかわからなくなった時は、「名前ボックス」で確認しましょう。

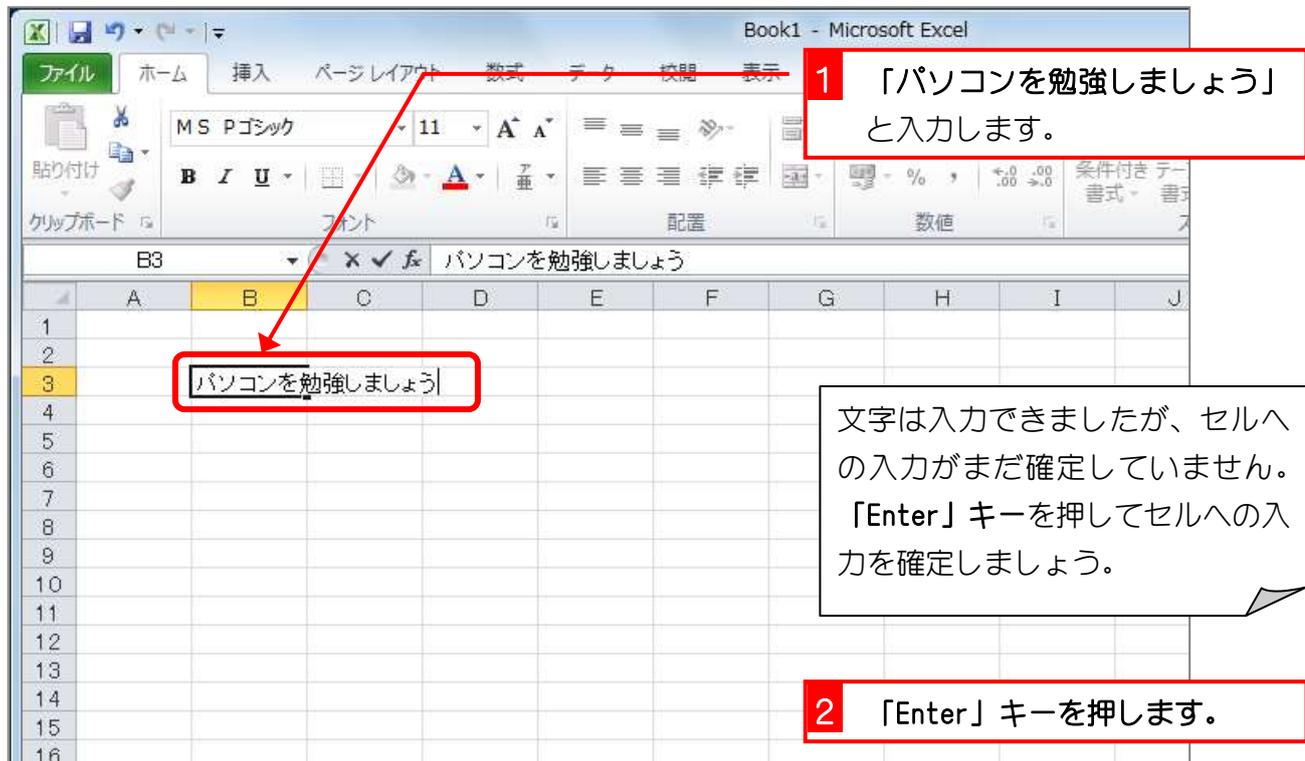


3. 日本語入力をオンにしましょう

Excel を立ち上げてすぐの時は日本語入力がオフになっています。日本語を入力するために日本語入力システムをオンにしましょう。



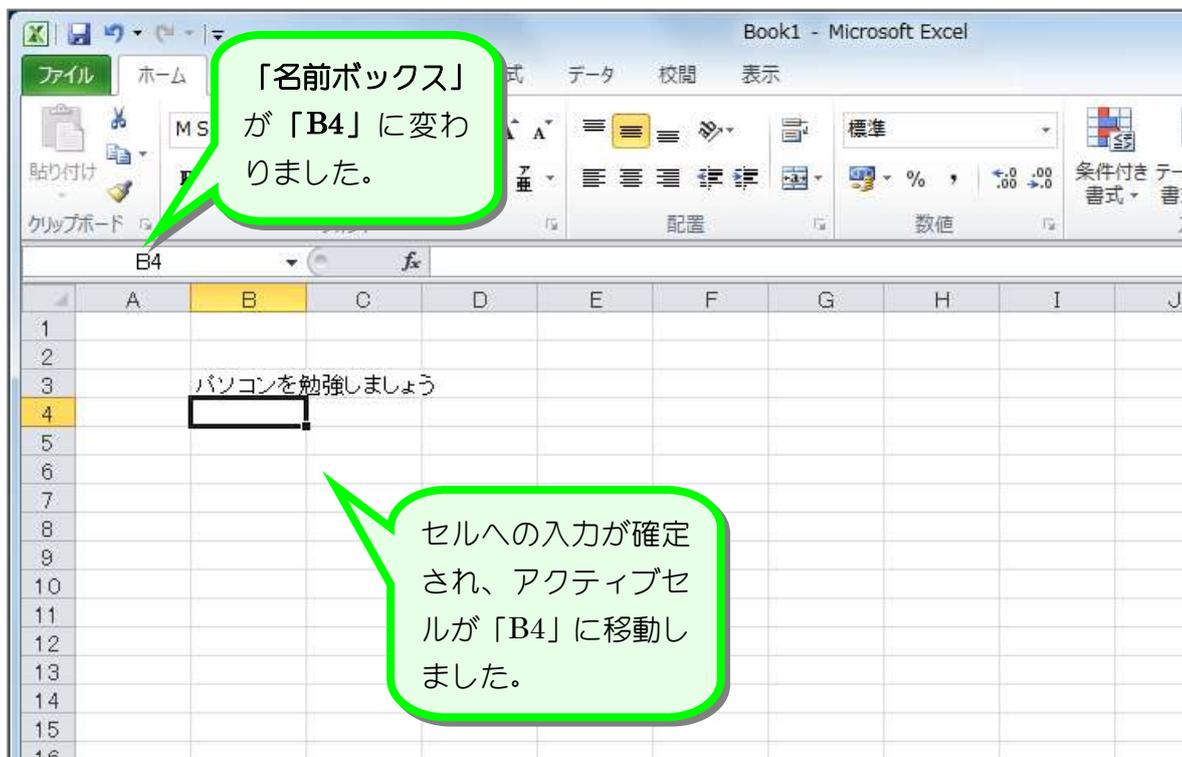
4. 文字を入力しましょう



1 「パソコンを勉強しましょう」と入力します。

文字は入力できましたが、セルへの入力がまだ確定していません。「Enter」キーを押してセルへの入力を確定しましょう。

2 「Enter」キーを押します。



「名前ボックス」が「B4」になりました。

セルへの入力が確定され、アクティブセルが「B4」に移動しました。

STEP 3. USBメモリに保存しましょう

USBメモリはフロッピーディスクと同じように手軽に扱うことができますが、フロッピーディスクよりもずっと多くのデータを保存することができます。写真などのサイズの大きなデータをパソコンから取り出すときはUSBメモリを使うと便利です。

1. USBメモリをパソコンに入れましょう



これがUSBメモリです。

パソコンのUSBコネクタに挿入して使います。パソコンの中にあるメモリは電源を切ると消えてしまいますが、USBメモリは電源を切ってもデータは消えません。そのため、フロッピーディスクに変わる記憶装置として広く使われています。

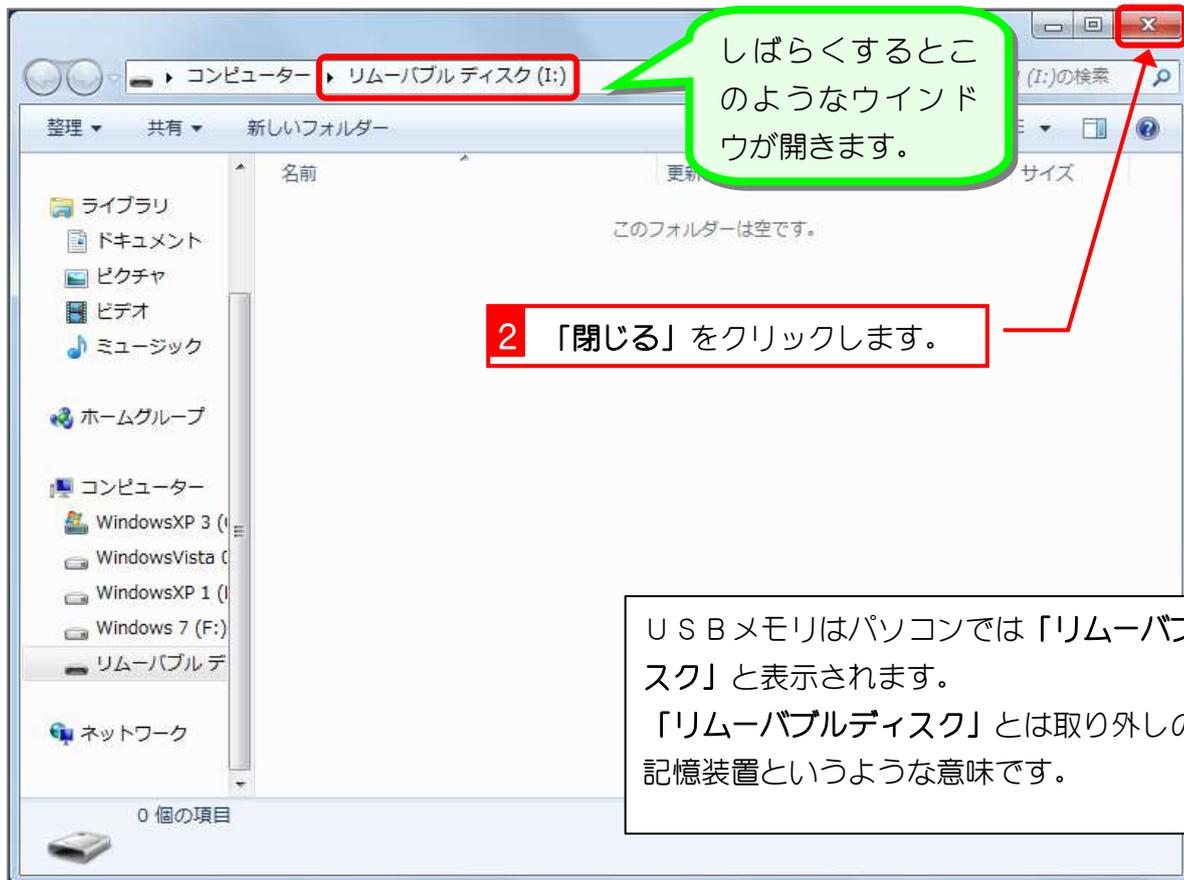


1 「USBメモリ」を「USBコネクタ」に差し込みます。

うまく入らないときは向きを変えてみてください。

USBコネクタはプリンターやデジカメをつなぐための四角い穴です。

パソコンには、いくつかのUSBコネクタがありますが、どれを使っても同じです。



参考 動作を選択する画面が開いたときは

USBメモリに画像や音楽のデータが入っていると下のような画面が開きます。

